



▲黄色の×印は橋が陥落した主な場所。オレンジの線が、当時物流・移動の幹線となった内陸の道路。特に山中の細い生活道路が大活躍した。

津波で沿岸部の橋のすべてが破壊され、幹線道路の国道45号はいたる所で寸断された。町外から被災エリアにアクセスできる道は、内陸から海岸へ抜ける国道398号のみとなった。

特に半島部は、津波で道路という道路が破壊されたため、何週間も孤立することになった。支援物資が届かないため、自分たちで食料を調達しなければならない状況が続いた集落では、瓦礫の中で見つけた缶詰や未開封のお菓子など、食べられる物を集めて、食事を補い命をつないだ。



▲歌津地区伊里前の国道45号の橋は津波で全壊した。  
写真提供 陸上自衛隊北部方面隊

また、行方不明の家族を捜す人たちは、遺体安置所になっているベイサイドアリーナや学校などの施設に行こうとしても、車が通れないため、自分の足で山道を歩いた。

町内を行き来できる道は閉ざされてしまったが、その厳しい状況下で役立ったのは、地元の人あまり通らなくなっていた山間の住民たちの生活道路であり、この道が住民たちの命をつないだのである。